

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念に沿って、その人らしく暮らして頂けるように、サービス提供を努力している。しかし、地域密着型サービスとしての理念は作っていない。	○	新たに地域密着型サービスとしての理念を加え、より良い支援が出来るようにしていきたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、苑独自の理念を日々意識し、実践できるように努力している。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットや毎月のホーム便りを通じて、家族や地域の方々に理解して頂けるように取り組んでいる。	○	苑の周囲にこの1年で更に住宅やアパートが増えてきているので、地域の方々にグループホームへの理解を少しでも深めてもらえる様に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が、犬の散歩やウォーキング等で苑の側を通りかかれた時は、気軽に話して頂けるよう努力している。	○	住宅、アパートが増えてきているので、子供や大人、年齢を問わず誰もが気軽に立ち寄って頂けるような努力をしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会などへの参加はしていない。年1回行われる町の文化祭には作品出展や見学に行くことで参加している。	○	地域の一員として活動に参加し、地域の方々との交流をみつにして行きたいと願っているが厳しい面もあり、大きな課題の一つといえる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着型としての計画が不十分な為、取り組んでいない。	○	運営推進会議を充実させ、地域活動への参加が出来るような取り込みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義は全職員理解しているが、十分に評価を活かせていない部分もある。	○	評価を活かして改善する為の話し合いを行い、少しずつでも出来ることから取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議は実施しているが、参加者全員が揃わなかったり、内容の充実もまだ足りていない為、サービスの向上には十分に生かすことができていない。 ・会議の内容は月1回行われる合同カンファレンスの際報告している。	○	・会議内容の充実性を高め、出された意見をサービス向上に活かす努力をしていきたい。 ・記録は必ず取っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は常に本庁や総合支所に出向き、報告、相談等を行うことで連携を取っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居手続きの際に必ず家族に説明し、必要な人には活用できるよう支援している。	○	合同カンファレンスの際に職員が制度について学び理解できるように取り組んでいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内にて虐待が見過ごされる事が無いように職員各々が十分に注意を払い防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時充分な説明を行い、理解して頂けるように努めている。又、不安や疑問に思うことは無いかな尋ね、それに対して納得して頂けるよう図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満の声や苦情が聞かれた時は速やかに管理者が運営者に相談し必要であれば直接相談して頂けるように取り計らっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・本人の暮らしぶりや健康状態については、来苑された際に必ず報告している。 ・金銭管理は各々の出納帳があり、入金して頂いた時、必ず明らかにしている。 ・常勤職員の異動はない。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近、家族からの不満、意見を訴えられた事があり運営者及び管理者が迅速に対応、家族に謝罪を述べ、今後の対応の仕方を説明し納得していただいた。	○	職員が家族との信頼関係を保ち、気軽に不満や苦情を言えるような雰囲気作りに努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の合同カンファレンスも含め、機会ある毎に意見や提案を聞くように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・出来る限り、要望に答えるよう努めている。 ・定期受診や急病での受診など家族が無理な時は職員で対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が殆ど無かったので、利用者のダメージは余り見られなかった。正職からパートへの変更はあったが、利用者の反応は別段変わらなかった。結婚退職された職員などは生まれた赤ちゃんなど見せに来て頂けるので利用者の方も喜ばれている。夕涼み会なども顔を見せていただけるよう声掛けをしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修や講習については、時間の許す限り各人参加をして頂いている。	○	実務研修などについては、介護福祉士を取られた方には受けていただくよう勧めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で同業者の方との交流はできていると思う。	○	今年からは管理、ケアマネジャーだけでなく、職員にも参加して頂こうと考慮している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会はあるがシフト性の為、その他のストレス軽減の機会を作る計画ができていない。	○	有休など取りやすい様に考慮している。出勤日数の多い月等は一斉有休をやることもある。これからも同じようにやっていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況は把握しているが、まだ、向上心を持って働いているかは努力が必要かと思う。資格取得者には資格手当などがつく様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	利用者一人一人がケアする内容、接する時間が異なる為、全員に同じようにゆとりある寄り添いが出来る様に職員と共に話し合いながら取り組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来苑された際、本人との面会の合間などに本人の微笑ましいエピソードを添えながら、現況を伝えたり、外出や外泊をされた後には、共に過ごされた様子を聴いて喜び、感謝の意を伝えている。	○	苑で行われる行事に一人でも多くの家族に参加して頂き、利用者の方と共に過ごす楽しみを感じていただけるようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や知人の面会も多く、本人と家族との良い関係は築けているように思われる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、本人の馴染みの方へ気軽に来苑して頂けるよう声掛けしている。又、「ふるさと訪問」として始めた月1回のドライブを行うことで馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を見極め、一人ひとりが孤立しないように関わり合い、支え合えるように努力しているが、医師の疎通が取れない方や自ら関わろうとされない方もおられ、難しい所もある。	○	孤立されないようにする為に、時には職員が間に入って声掛けし、他利用者との関わり合いのきっかけを作っていけるように支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする方々に対しては、常に連絡を取り合う努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談、家族の面会時、日々の本人との会話の中から本人や家族の気持ちを聞き、日々のケアの中に活かしている。又、今年度は何名かの御家族にセンター方式のアセスメントに協力を頂いて本人や家族の意向を把握している。天候の良い日は、庭で日光浴をして、民謡を歌ったり、踊ったりしていると近所の方が散歩の途中に声を掛けてくださる。又、近所のせんぐ撒きの見学をしていると頂き物をしたりする。入居者の方の表情も良く、いい気分転換になっている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話、他の入居者との会話、家族友人の面会時に情報を得ている。又、以前利用された施設からの情報提供など、又センター方式のアセスメントの記入に御家族の協力を得ている。	○	センター方式のアセスメントの協力を4名ほどの御家族に協力を得ている。身内の殆どいる方なので、在宅時の民生委員さんたちの協力も得て情報を増やしていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランや日課表、毎日のカルテの中から把握し、毎日のミーティングの中で引き継ぎ情報を共有し、事故防止や日々の暮らしのケアに活かしている。	○	センター方式の暮らし方、シートを活かし精神状態の不穏な時や生活リズムの把握に努めて、きめ細かいケアをしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族、当苑スタッフ、ケアマネージャーを中心に利用者本位の介護計画になるように計画している。その為に月1回のモニタリング、3ヶ月に1回の家族を交えたモニタリング、6ヶ月1回、家族、本人同席で担当者会議を開いている。又、入居者の状態が変化した時もその都度おこなっている。	○	帰宅願望や閉塞感の強い利用者に対して、ドライブや散歩の機会を増やしたい。又、地域の色々な行事に気軽に参加出来るように援助していきたい。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の体調の変化、入院、退院、精神的な不安により、実行できないプランが発生している時は家族と相談の上に見直しのプランを提示している。又見直しの時期が来ていなくても、スタッフとのモニタリングや本人の拒否が強い場合は見直している。	○	家族の面会時に一緒に歩行運動などをして、入居者にアドバイスをしてもらったりして、プランがより入居者の為になるように工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記録している。毎朝の引継ぎ時に情報を共有し、見直しすべき点についてはすぐ改善し、実施している。(転倒防止、食事摂取、体調管理、不穏時の対応等) 筋力低下により転倒の危険性の高まった利用者により毎日の情報把握により、環境整備や家族への支援のお願いなど毎日実行して、事故を防いでいる。又、毎日のリハビリの様子を把握したり、血糖の管理にも努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所は、多機能型ではない為地域密着型の共同生活介護しかできない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアによる毎月1回の紙芝居 ・保育園児や尺八の方の慰問 ・田野町文化祭への出品、見学 ・老人クラブからの雑巾やタオルの寄付 ・地域消防団との防火訓練	○	・地域行事や他施設の行事への参加(文化祭など)なども取組んでいきたい。 ・月1回のふるさと訪問(ドライブ、家庭訪問等)を継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービスの活用支援は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・社協の権利譲後を利用している。(月1回の訪問) ・包括支援センターと協働して入居者の相談を受けたり、情報を共有している。 ・包括支援センター主催の地域全体を交えた会議に出席し協働している。 ・今年は身寄りの無い入居者の白内障手術の際、地域包括支援センターのアドバイスや社協の協力を得られ、本人も無事手術を終えられ喜んでおられた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を第一に考え、それぞれに納得の得られたかかりつけ医での受診ができるように支援している。 かかりつけ医(市立田野病院・小村内科・北村内科・若草病院・井上病院・小村歯科・医大精神科)		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医だけでは、難しいと感じられた時は家族と相談し、専門医への紹介、受診支援を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護職員が従事し、他職員との連携を取りながら、日常の健康管理や、医療活用の支援をしている。 毎朝10時のバイタルチェックを施行し、健康状態を把握・それ以外でも異常を感じた時はすぐにバイタルチェック後かかりつけ医に連絡や受診をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて、かかりつけ医との連携はしている。入院後1ヶ月は猶予している。それ以降は家族と事業所との相談となっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点での方針は、入院加療としている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて検討し、協力が得られそうな医療機関と相談したが、緊急時医師の確保が困難な為、現時点ではできない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	家族、本人に充分説明し、納得、安心させた上で 次の居所へ移れるよう支援している。その際は、 必ず情報提供書を送付したり、次の居所のケアマ ネージャー等への連絡も行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合った言葉掛けや対応を行 い、プライバシーを損ねないように努め、記録の 際もアルファベットを使い個人名が記載されない よう配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	できる限り利用者の方と寄り添う時間を作り、本 人の思いや希望を表せるよう働きかけ、その言葉 や表情から本人の思いを読み取れるように心掛け ている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活が送れるよう に心掛けているが、午前中は利用者同士や職員 との交流を図る為の時間を頂いている。(バイタ ルチェック後体操・外気浴や時には散歩・レクリ エーションへの参加などして頂く)		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう 支援している。理容は2～3ヶ月に1回の割合で 苑の職員が行ったり（その際は家族、本人に了解 を得る。）馴染みの店に行かれる利用者もおられ る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの中に四季折々の物や利用者の好みの物を提供するように努めている。又、利用者の出来る力を活かしながら食事の盛り付けや配膳、片付け等を手伝って頂いている。職員も一緒に食べている。好みを把握して、嫌いなものやアレルギー等で食べられない物がある方に対しては代替食を作って提供している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・現在、喫煙・飲酒をされる方はおられない。 ・食物は嗜好の支援を行っている。 ・15時のおやつでは、パン類、果物、ふかし芋等や利用者家族からの差し入れを提供する事もある。 ・当苑では禁煙とさせていただいている。 ・行事の際、希望される方がおられる時はアルコールを提供する。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・各々の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレへの誘導、声掛けを行い、気持ちよく排泄出来るように支援している。（リハビリパンツ使用者は6名） ・夜間のみ紙オムツ使用されている方が1名		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は1日おきに4名と5名に分かれて入っていたいっている。 ・一人ずつの入浴なので、プライバシーは保たれており、楽しんで入っていたいっている。 ・業務上、一人の入浴時間は約30分が限度となり各々の希望やタイミングに合わせて入浴していただくのは難しい。	○	入浴介助は本人とのコミュニケーションを取れる大事な時間なのでできる限り、ゆとりある会話をしながら入浴をより楽しんでいただけるよう努めていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・健康維持や昼夜のリズムを作る目的で、日中は体操、外気浴、廊下での歩行運動等に参加して頂いているが必ず声掛けを行い、無理強いする事無く気持ちよく過ごせる様支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできる力に合った役割を考え、その方が気持ち良く手伝って頂けるように、洗濯物畳みや干し方、食事の下ごしらえや後片付け、針仕事等を危険防止を充分配慮して支援している。	○	・歌の好きな方がおられるので、民謡や歌謡ショーを録画しておいて見ていただいている。 ・一部の方に添う事で、他の方は仕方なく合わせられている部分もあるので、一人ひとりの楽しみ事や気晴らしができる様に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように支援していきたくてはいるが現実的に難しい。 ・ドライブや紅葉狩りの時は立ち寄った売店で各々のお金を用意し買い物をしていただいている。	○	気軽に短時間で行ける距離にお店が無い為、現在では難しい問題ではあるが、サポートの仕方を職員で話し合いながら出来る限り買い物を楽しめる場面作りに努めていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日常的には外出支援はできていない。 ・月に1回のドライブを行っているが、全員参加ではないので3名程を交代で行くようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・春には桜の花見 ・秋には紅葉狩りで、前年とは違う場所に行くようにしている。 町の文化祭見学	○	温泉に行きたいという声もあるので、全員参加は難しいが、業務上、余裕ができれば職員が交互に、あるいは家族に協力を依頼して家族と共に出かけられるような支援をしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される方はおられないが電話については希望があればいつでも対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたでも気軽に来苑して頂けるような雰囲気作りに全職員努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	棟の出入り口の施錠は現状ではせざるおえない。その際は必ず家族への説明、同意を得ておこなっている。	○	どなたでも気軽に来苑して頂けるような雰囲気作りの為にも出来る限り開放したいと思っているので検討して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室の鍵は掛けていない。 ・棟の出入り口に関しては、利用者によって何度も苑外に出られる方がおり、危険な目に合わないでいただけるよう施錠している。弊害は職員全員理解している。	○	鍵をかけずに、安全を追求した暮らしを支える取り組みに努めて行きたいと思っているが現状では難しい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りしながら、利用者の様子の把握に努め、安全にも配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等は利用者の手や目の届かない所へ保管し、一方で職員が常に気配りし、危険を防ぐ取り組みをしている。但し、台所用洗剤は常時使用する為、いつも出している。	○	・利用者に添った対応で、危険を察知した時等は、迅速な対応が出来るよう努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒しやすい方、誤嚥しやすい方、苑外へ出ようとされる方に対しては、各々の知識を学び、常に意識して事故防止に努めている。 ・現在、全員に服薬あり。誤薬防止にも充分努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本マニュアルを作成しているが、定期的な訓練は行っていない。研修や勉強会への参加を全職員が交互に行くような取り組みを行っている。	○	急変や事故発生時にはどうしても慌ててしまうことがあるので、定期的な訓練や勉強会を行って行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災時には直通で連絡できるようにしている。 ・災害時、地域の人々の協力が得られるまでには至っていない。 ・前回より火災訓練の記録はしている。	○	最近、周囲に住宅、アパートが増えてきているので徐々に馴染みの関係が築けるよう努力し、災害時の協力が得られるような取り組みをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時には各々のリスクについての説明を家族に対して行っている。又、3ヶ月、6ヶ月に1度の担当者会議や家族面談の際も対応策の説明や話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルのチェックの際は、測定と共に本人への体調の問いかけを行い、変化や異変の早期発見に努めている。又、気付いた変化や異変は速やかに申し送りで情報共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬に関する内容を全職員が把握できるよう、服薬表をカルテに添付している。服薬の支援、症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の食生活への気配り、適宜な運動への声掛けを行い、便秘の予防に努めている。又、かかりつけ医に相談し、緩下剤の服用の対応も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの必要に応じて、毎食後は口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行い清潔保持に努めている。夜間の義歯消毒も定期的に行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事の摂取量は常に記録している。 ・水分摂取量は各々に応じた支援に努めている。 ・メニューを立てる際には栄養のバランスを常に考慮し、偏った食材を提供しないよう努めている。	○	毎月1回、栄養士による献立のチェックをしてもらっているがその結果は紙面でのコメントのみなので、合同カンファレンス等を使って職員が直接指導を受ける場を持つように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染マニュアルを作成し、その都度対応出来るように努めている。 ・インフルエンザについては、毎年職員も含め、予防接種をしていただいている。	○	昨年度はインフルエンザ感染者が一人も出なかった。これからも日々の手洗い、嗽の徹底に努め予防、早期発見を心がけていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物に行き、作り置きはしないで常に新鮮な物を使用するように努めている。又、生ものは殆ど提供しないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも気軽に出入り出来るように玄関周りは広々としており、花を植えたり工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂（ホール）では、居心地良く過ごして頂く為にTVやCDラジカセ、ソファを備え、利用者の意向に合わせて、音楽を流したり、見たい番組にチャンネルを合わせたりしている。 ・季節感を感じて頂けるような花や飾りつけも工夫している。	○	過度にならない飾り付けを工夫し温かい雰囲気作りに努めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファに座ってくつろいで頂いたり、畳の間に上がって横になれるなど、思い思いに過ごせる時間を作る工夫をしている。行事の時の写真などを展示、それを観ながら嬉しそうに利用者同士で会話されている場も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や人形、生活用品を持ち込まれ ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・空気清浄機を設置している。 ・利用者の状況に応じ、換気や温度調節はこまめ に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・要所要所に手摺が設置され、床はバリアフリー となっている。 ・夜間ポータブルトイレを使用される方には起立 棒やベッド柵の固定により、安全に動けるよう工 夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の前に各々の目印を付けたり、名前を大きな 見やすい字で表示したりと工夫し、それでも自室 がわからず他利用者の居室を覗いたりされる方 にはその都度対応、誘導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・中庭はあるが、風が強い日等は風が巻き、ほこ りが立つのでうまく活用できていない。 ・玄関にベンチを置き、外気浴をしながら会話を 楽しんだり、一緒に歌を唄ったりする場に活か している。	○	中庭では車の出入りも全く無いので安心して過 ごせる為、今後の活用を検討していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）